

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内 1 丁目 3-30
TEL 088-821-2000
FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1081 2010 年 4 月号

四国銀行と連携した 森づくり活動

3 月 20 日、高知県香美市の穴内川ダム湖畔の国有林で、四国銀行との連携による森づくり活動を行いました。

詳細は 2 頁に掲載



植樹に参加された四国銀行の皆様



植樹の様子



三月二〇日、高知県香美市の穴内川ダムの湖畔にある立割不寒冬山国有林(嶺北森林管理署管内)において、四国銀行と森づくり活動を行いました。

この活動は、「日本の森を守る地方銀行有志の会」の発起行である四国銀行が推進する地域の森づくりを支援する取組として、平成二二年三月に実施した無花粉スギ及び少花粉スギの植樹に続いて二回目となります。

当日は、二九名の行員と家族の方が参加し、はじめに、二二年三月に植樹したスギのうち、枯れてしまった無花粉スギ一〇本の植え替えを行いました。続いて、継続して無花粉スギ及び少花粉スギの成長状況を観察していくため、太さと高さの計測をしました。今回で二回目の参加者は、自分で植えたスギに愛着があるようで、スギを撫でたりしながら計測していました。

最後に、自然や森林を楽しみ

ながら体感し学ぶため、野外ゲームを行いました。講師は、四

国森林管理局森林の達人の一人の松本孝氏です。ウサギになる人と、生息地の要素として食物、水、隠れ場所となる人の二グループに分かれて、ウサギの人が今必要としている要素の人を捕らえるというもので、一回を一年とし、これを繰り返しながらグラフに記録しました。参加者は、捕らえる、捕らえられるという過程を繰り返してウサギの数が増減していくことを体験し、環境の変化とウサギの個体数の変化に密接な関係があることに感心していました。

また、ウサギとニホンジカの糞、リスとアカネズミが球果を食べた残骸などを実物で観察しました。特に、リスがドイツトウヒの球果を食べた残骸については、大きさ、形とも正にエビフライであり、これには大変驚いていました。

四国森林管理局では、四国銀行の森づくり活動について、今後も協力していくこととして



スギ計測の様子



三月二五日、四国森林管理局において、「地域管理経営計画等の策定及び変更に係る検討会」を開催しました。

本年度策定箇所は東予と高知の二計画区、変更箇所は吉野川計画区をはじめとする九計画区です。

検討委員は、指導林家、大学教授、新聞社論説委員、建築士会会員等の学識経験者一三名で、今後五年間の国有林野の取扱いについて、検討していただ

きました。

この会議における意見や要望等については、以下のとおりです。

○森林吸収源対策で間伐木を伐り捨てても有効なのか。

○シカの食害対策について国有林の取組を教えて欲しい。その効果はどうか。

○低コスト林業や、複層林のモデル林等、先進技術の普及をお願いする。

○無花粉スギの導入を進めると同時に、花粉対策としての間伐をPRすべきである。

○NIE(ニュースペーパー・イン・エデュケーション：学校教育への新聞の活用)では科学関連の記事が不足しているの

で、提供をお願いする。

○四万十の「遊々の森」、「サンショウウオの森」で、希少なサンショウウオを地元から守る動きを進めて欲しい。

○石鎚山のオーバーユースによる環境汚染がひどいので、環境整備の取り組みを是非お願いします。

○全国的に、森林の年齢構成が偏っているので、平準化が重要

ではないか。

○森林計画制度は世界的に見て素晴らしい制度だと思うが、林業後進国に広げる取り組みを行ってはどうか。



森林計画検討会



シリーズ107

地域の声

森林と共生する

林業を目指して

梶原町森林組合

代表理事組合長

中越 利茂



平成二十二年一〇月、持続可能な森林管理「森林と共生する林業」を推進する事業体を宣言し、国内の団体では初となるFSC森林認証と、木材流通加工の認証を受けました。

二、二五〇畝でスタートした認証面積も、一〇年目を迎えた現在では一三、二三八畝になり、

町内の私有林の八割が認証森林となりました。

FSC森林認証を受けた動機は、当地域は従来から自然と共に生きる知恵、環境と共生の思想のベースがあること、昭和五

〇年代の前半から開始した

間伐事業により、林内は下層植生が繁茂し動植物の多様性が図れているなど、地域の進めてきた林業がFSC認証基準と同じ方向にあること、また、昭和五四年度から開始した製材加工事業においては、工務店との取引の中、認証材としてのブランド化に繋がることが期待でき、木材に新たな付加価値が生まれること、さらには、環境保全意識の高揚を含め地域の活性化に繋がると考えたからです。

認証取得後の製品加工事業では、環境に関心のある消費者・設計士・工務店から邸別の受注が増加し、取得前に二〇割程度であった直接取引量が、現在では六〇割に達するまでになりました。

また、邸別の受注生産を行う

ことに伴い、乾燥、高次加工など完成品の生産が主体となり、付加価値生産が増加することで雇用の場の創出に繋がりと、流通コストの低減が図れることで、森林所有者の経営意欲が向上するなど、地域の活性化に繋がってきております。

今後、さらにFSCを地域のブランド化に繋げるため、工場・森林の産地見学会や伐採祈願祭などを開催し、安全・安心を求める消費者に対し、顔の見える家づくり事業として展開をしていきます。

また、「もったいない」を合言葉に、循環型社会づくりの一環として、平成二〇年から全木ペレットの製造を開始した、第三セクター「ゆすはらペレット(株)」の運営の中核として、従来未利用の林地残材・製材所残材を使用し、二二年度から年間一、八〇〇トンのペレット製造を目指しております。

今、NHKの大河ドラマで龍馬伝が放映されておりますが、坂本龍馬は船中八策を掲げ、維新の夜明けを目指してこの梶原から旅立ちました。環境の世

紀二一世紀を迎えた今、この龍馬に学びFSCの理念を大切に、森林と共生し四万十川の流れと黒潮の海、そして青い地球を守るグローバルな森林組合として、今後も活動をして行きたいと考えています。



産地見学会



伐採祈願祭

「梶原町森林組合」は、平成二〇年度「四国山の日賞」(木材利用推進分野)を受賞されました。

各地のたより

よみがえれ!

大道マツ

— 現地検討会を開催 —
〈ふれあいセンター〉



三月一〇日、四万十町の古屋山国有林で「大道マツ再生現地検討会」を開催しました。

現地では、平成一六年度から試験地を設けて、マツの発芽・成長を促進しマツ林の再生を図るための取組みを継続しています。部分的には稚樹の発生成長がみられますが、事業開始から五年を契機に、有識者や関係機関、地元住民の意見を聴き、今後の参考とするため開催しました。

当日は、雪の舞うあいにくの天候となりましたが、熱心に現地を視察していただきました。その後、十和総合支所に移動して、当センターのこれまでの取組みや成果、課題について説明しました。意見交換では、「現存しているマツに樹幹注入などの措置をしてはどうか」「裸